

# 事 業 報 告 書

第 21 期

自 2023 年 4 月 1 日

至 2024 年 3 月 31 日

特定非營利活動法人 劇研

## 目次

### **特定非営利活動に係る事業**

創造事業	.....1
人材育成事業	.....3
国際交流事業	.....5
文化・芸術活動支援事業	.....6
文化・芸術を教育や児童青少年育成に活用する事業	·7
文化・芸術による地域のまちづくり事業	.....7

## 特定非営利活動に係る事業

創造事業	支出額 2,734,995 円
------	-----------------

### 1. 事業内容

シニア世代の表現活動促進を目的に舞台芸術作品の制作・上演を行った。

### 2. 活動実績

50才以上を限定とするシニア世代の劇団運営を継続。（劇研シニア劇団／高槻シニア劇団）

#### A. 京都を拠点に活動する劇研シニア劇団銀宴の企画運営

(主な活動場所 左京西部いきいき市民活動センターほか)

##### **シニア劇団「銀宴」練習毎週水曜日(指導・演出:田辺剛)**

2022年度の公演後、2021年度から入団したメンバー2名が抜け、2023年度の公演には昨年度休団していた1名が戻り、1名が1年間の休暇に入り計7名での参加となった。2023年7月7~8日、場所は昨年同様、新田辺シアターファクトリー。キャバは狭いが地元のメンバーが2名おられ、京都市内からのアクセスも悪くはなく4ステで動員総計129名だった。



昨年7月の公演は4月に亡くなったメンバーTさんを偲ぶ作品であったが、今回は私達なりのTさんへの追悼を演劇という形にしたもの。設定はコーラスグループ、急に亡くなった仲間の葬儀に駆けつけたいのに何故かたどり着けないというロードコメディ『駆けつけたくて』。キャスター付きの黒い箱4個のみのシンプルな舞台で故人にお別れを言うまでの旅を創造した。

公演後には又2021年度からのメンバー1名が抜けたが、休団や退団していたメンバーの復帰に加え2020年度の公演で客演としてTさんの代役をされた方が正式に加わり、経験豊かなメンバーで来年度の第10回記念公演に向かうことになり8月末から11月までは高杉征司先生に演技指導をお願いした。12月からは田辺先生の書下ろしで2024年度公演に向けて稽古を始めた。8月より担当は土井から岡田さんに代わった。2024年度公演は「高槻de演劇」に特別枠として参加する。

##### <取り組み総括>

演劇に初めて挑戦された方が全員続かなくて残念だが、旧メンバーの復帰は非常に有難い事だった。やはり演劇への「心構え」の違いが原因ではないかと思う。毎回作品に登場する再会、出会いは私達の事なのだ。（土井礼子）

#### B. 大阪府高槻市を拠点とする、高槻シニア劇団2劇団の企画運営

(活動場所 高槻現代劇場 富田ふれあい文化センター他)

##### **千年団 練習毎週火曜日(指導・演出:小原延之)**

公演:2023年6月10日、11日

第4回公演『みんなでチエーホフ～チエーホフ短編戯曲集～』

脚本: アントン・チエーホフ 演出: 小原延之／2ステージ

会場：高槻城公園芸術文化劇場大スタジオ

公演出演者 12 名 来場者数：171 名 hh

＜取り組み総括＞

高槻城公園文化芸術劇場 開館記念 高槻 de 演劇 2023 初夏のプログラムの一つとして実施。コロナ対策を意識し少人数で稽古ができるよう、登場人物が少ないチエーホフの 5 つの短編作品を上演した。



これまでの高槻現代劇場 305 号室より広さや密室さが増し、新たな空間での上演に喜びの声が多かった。スポーツとチエーホフを掛け合わせる演出に当初は戸惑いもあったが、火曜日の稽古以外にも自主練を重ね、シニア演劇とは思えない程の運動量をこなし、大変な力作となった。（飯坂美鶴妃）

**そよ風ペダル 練習毎週火曜日(指導・演出:筒井潤(dracom))**

公演:2023 年 6 月 3 日

第 9 回公演『喜劇 新航海時代』脚本・演出：筒井潤(dracom) /2

ステージ

会場：高槻城公園芸術文化劇場大スタジオ

公演出演者 12 名 来場者数：213 名

＜取り組み総括＞



高槻城公園文化芸術劇場 開館記念 高槻 de 演劇 2023 初夏のプログラムの一つとして実施。

そよ風ペダルは高槻現代劇場中ホールや京都市中京区のアバンギルドなど様々な場所での公演実績があるため、新しい空間への順応も早かつた。

台風の上陸と小屋入りが重なり、交通事情で帰宅しなければならない劇団員もありタイムテーブルの変更もあったが、劇団員はとても落ち着いて練習に臨み、無事に本番を迎えることができた。

長年続けてきた劇団員と講師、スタッフの信頼関係のおかげでスムーズに対応することができた。

（飯坂美鶴妃）

## 1. 事業概要

舞台芸術に関わる人材育成を目的に、各種のプログラム及び公演を実施した。

## 2. 活動実績

- ・演劇初心者、アマチュアの演劇爱好者を対象にした公演クラスの継続(京都 1 クラス／高槻 2 クラス)

### A. 劇研アクターズラボ・公演クラス 京都 (主な活動場所 左京西部いきいき市民活動センター)

演劇初心者、アマチュアの演劇爱好者を対象にした演劇クラス。1年間の練習を経て公演を実施する。

#### 「劇研アクターズラボ+村上慎太郎」 チーム名「劇団 デマチカヤナギ」<指導：村上慎太郎>

土曜日午後 2 時 30 分～4 時 30 分 メンバー数 10 名

2回目となる公演を 2023 年 5 月に実施した。公演は左京東部いきいき市民活動センターの主催事業「新緑の文化祭」として実施した。2023 年 5 月からは新たなメンバーを加え 3 期目として活動を継続している。

第2回公演「グレイト・グット・プレイズ」

2023 年 5 月 3 日～5 月 5 日 4 ステージ

会場：左京東部いきいき市民活動センター集会室

来場者数：141 名

#### <取り組み総括>

上演会場が不足する中、左京東部いきいき市民活動センター集会室を劇場化し、昨年に増して装置を組んで上演することができ、演技のレベルアップも図られより良い作品が見せられたことは大きな収穫であった。10名中8名が3期も継続してくれ、この事業の方針でもある継続性がうまくいったことで演技技術の向上とさらなる作品のレベルアップも図ることが期待される。このクラスは異例の4期目の実施がすでに決定している。

(杉山準)



### B. 劇研アクターズラボ・公演クラス高槻 (主な活動場所 高槻城公園芸術文化劇場<大阪府高槻市>)

演劇初心者、アマチュアの演劇爱好者を対象にした演劇クラス。1年間の練習を経て公演を実施する。

#### 「劇研アクターズラボ+サファリ P」 チーム名「私鉄沿線・B」<指導：サファリ P>

練習毎週水曜日

#### <稽古>

【第2期】：2023 年 1 月～2023 年 12 月 受講 6 名

【第3期】：2024 年 2 月～2025 年 3 月予定 受講 14 名

稽古会場：城内公民館など

#### <公演>

【第2期】：2023 年 12 月 16 日, 17 日 高槻城公園芸術文化劇

場サンユレックホール



演目「森の童話三部作」

来場者数 109 名 2 ステージ

脚本・演出 山口茜 出演 6 名

【第3期】（予定）：2025年3月8日、9日 高槻城公園芸術文化劇場サンユレックホール

<取り組み総括>

1期～2期は「劇研アクターズラボ＋サファリ・P」の名義で活動。1期ではメインで高杉征司さんが指導され、サブでサファリ・Pメンバーが代わる代わる来る体制。2期では山口茜さん、達矢さん、佐々木ヤス子さん、芦谷さんが週替わりの交代講師制。3期では、サファリ・Pを脱退された高杉征司さんによる単独の講師体制となり、講座名も「劇研アクターズラボ＋高杉征司」となる。3期スタート時に新規メンバーが10人近く加わり、現メンバーで1年かけて0から作品を作っていくスタイルで毎週の稽古を行っている。

(岡田眞太郎)

国際交流事業	支出額 0円
--------	--------

1. 事業概要

舞台芸術を通じて交際交流を推進する事業。

2. 活動実績

一昨年共同で事業を実施したスコットランドの劇団 Tricky Hatとの交流は続いており、当法人の事業ではないが、Tricky Hat の演出チームが来日し、左京東部いきいき市民活動センターで元シニア劇団星組の「50歳からのハローワーク」チームとワークショップをおこない、小発表会を実施した。

3. 活動総括

当法人が主催した事業ではないが、シニア劇団星組メンバーと劇団 Tricky Hat の交流が続いたことは大きな収穫だったと思う。次年度は久々に国際交流事業の実施が決定しているので、交流の輪を今後も広げていきたい  
(杉山準)

### 1. 事業概要

舞台スタッフやプロデュースなど専門家の派遣や演劇プログラムの企画・実施等を請け負う。

### 2. 活動実績

- ・近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻等への高所作業指導員の派遣。年間複数回実施。
- ・公益財団法人高槻市文化スポーツ振興事業団が行う、高槻現代劇場の演劇プログラムの受託。

#### 近畿大学および付属高校に高所作業等指導者を派遣

年間実績：延べ 100 名（前年度 63 名、一昨年 53 名）を派遣した。

コロナ禍からの回復により、派遣数も年を追って増加傾向にある。

#### 公益財団法人高槻市文化スポーツ振興事業団から演劇プログラムの受託

2023 年 4 月にオープンした新劇場「高槻城公園芸術文化劇場」大スタジオ(現 サンユレックホール)で  
2012 年から続いてきた演劇事業「高槻 de 演劇 2023」を劇場のこけら落とし事業として実施した。

総観客数:663 名 ワークショップ参加者数 : 51 名

### 3. 活動総括

新型コロナウイルスの影響から回復し、近畿大学からの委託も増加している。昨年度劇場建て替えに伴い中断していた、高槻 de 演劇事業は新劇場のこけら落とし事業として復活し、コロナ前に増して来場者が訪れ、幸先いい再スタートとなった。（杉山準）

## 文化・芸術を教育や児童青少年育成に活用する事業

支出額 0 円

### 1. 事業概要

舞台芸術の表現の魅力を伝えるとともに、その表現や演技の力を社会に活かす活動を実施する。

### 2. 活動実績

高槻での新劇場のオープンに伴い、継続していたアウトリーチ事業が全て中止となった影響を受け実施されなかつた。

### 3. 活動総括

授業の一環で小・中学校で演劇にまつわるワークショップを行う事業は、2022 年度まで 11 期目続いてきたが、2023 年度は（公財）高槻市文化スポーツ振興事業団からの発注がなかったため残念ながら中断してしまった。次年度からの復活を祈りたい。また、懸案となっているノウハウや技術が活かせるような他の学校や地域も開拓していきたい。（事業担当：杉山準）

## 文化・芸術による地域のまちづくり事業

支出額 36,232,948 円

### 1. 事業概要

文化・芸術を活用した手法を用いて地域のまちづくり、市民活動の活性化、地域振興に資する事業を実施する。

### 2. 活動実績

- ・京都市左京西部いきいき市民活動センターおよび左京東部いきいき市民活動センターの管理・運営およびサロン（旧 高齢者ふれあいサロン）の管理運営と市民活動、地域活性化に関わる事業の実施。建物の維持管理を行うとともに、会議室を、文化事業を始めとする市民活動に貸し出す事業を実施した。
- ・高齢者福祉やまちづくりに資する以下の「提案事業」（旧「市民活動活性化事業」）を京都市の委託事業として実施した。

### <左京西部>

2022 年 4 月より、「利用料金制度」へと移行し、一律 100 円/1 時間であった使用料が最大 600 円/1 時間となり、指定管理料 20,925,802 円/1 年+市民活動活性化事業費 50 万円、合計 21,425,802 円から、必須業務 12,202,090 円/1 年+提案事業 475 万円/1 年で合計 16,952,090 円/1 年となり、減った分の 4,473,712 円は利用料収入で賄うこととなった。

2023 年度の会議室等利用件数は 4,022 件で前年度比 83.7% だった。（2022 年度 4,802 件）総利用時間は 9,544 時間で利用率は約 50.1%（10 ポイント減）だった。

会議室等利用料収入は 4,812,100 円でロッカー使用料が 79,680 円、合計 **4,891,780 円** だった。

### 今年度からの取り組み

令和 6 年 3 月 18 日より、利用者の利便性向上のため、当日の利用に限り、電話での仮予約を受け付ける事とした。3 月 18 日から 3 月 31 日までで 5 件の当日電話仮予約があり、今後の利用者増加につなげたい。

### 主な提案事業について

「サロンを活用した市民活動活性化事業」の項目があることから、サロンを使用した積極的な市民活動活性化事業を行った。毎月開催される廃材アートワークショップや、子育て世代を対象にした物々交換会などは好評で今後も継続していこうと考えている。

その一環で立ち上がったサロン活性化サークルは昨年度始めた『自由菜園』や『自由本棚』の取り組みを継続しながら、コンポストの作成、設置を行った。

以前独居の高齢者の居場所作りとして行っていた「高齢者食堂」は高齢者に限定せず誰でも参加できる「ふれあい食事会」として再始動した。当初は参加者が少なかったが、2024年1月以降参加者も増え、上記サロン活性化サークルなどと連携し、新たな取り組みを考える場になりつつある。

### 今後の展望

利用料制度2年目に入り、利用率も低いながら安定してきた。養正市営住宅建て替えに伴う跡地利用を含め、地域の活性化にNPO劇研が果たす役割も徐々に大きくなってきており、今後数年間で実施される再開発に文化芸術の活用を盛り込んでいくため、様々な取り組みで地域や周辺住民との連携を強化していくと考えている。（山口浩章）



### <左京東部>

利用料の値上げに伴い、一昨年度前年比約25%減少した利用件数はさらに前年比22%減少し利用時間数においても前年比22%減少と運営状況は厳しさを増している。支出を抑えたことで黒字を維持したが、当センターは2025年度（R7年度）末をもって閉館が決定しており、利用者の減少傾向は続くと予想される。収入を増やすための利用促進が今年度の課題となっている。

#### 利用料金の収入実績

2023年度（令和5年度）実績：7,024,960（前年度比93.7%）

\*前年度実績には1時間100円の期間が含まれるため、利用件数に比べ減少幅が少なくなっている。

内訳 会議室等：6,869,900円

付属設備：87,000円 ※自主事業分を除く

ロッカー：68,060円

\*主な主催事業

#### 【事業名】芸術・文化を活用した地域のまちづくり事業 取り組み1 『多様な交流の促進事業』

左京東部いきいき市民活動センターを、利用団体、地域団体などとの交流の場として機能させる目的で文化交流事業を開催した。「新緑の文化祭」「秋の文化祭」「春の文化祭」と題して、センターユーザーによる多ジャンルの音楽、ダンス、演劇、落語など多彩な催しを実施した。中学生からシニア世代まで幅広い世代が参加し、レベルの高い演奏などを実施した。出演者どうし、観客を交えて楽しい交流の機会を創出した。

開催日時：令和5年5月3日16時、4日14時および18時30

分 等

開催場所：左京東部いきいき市民活動センター 集会室

参加人数： 381名

協力団体等： T-position Ballet 等



### 3. 活動総括（事業担当:杉山準）

いきいき市民活動センターの指定管理事業は、2022年度（R4年度）からの利用料金制移行に伴い、より運営努力を求められることとなった。しかし利用の減少傾向に歯止めがかからず、特に左京東部においては昨年度に続き大きく減少した。利用増への工夫や努力が一段と求められる。一方で事業については両センターともに活発に実施され、来場者も増え盛り上がりを見せている。特に左京西部ではセンターが主催する事業ではないか、地域のまちづくりに積極的に関与し、まちづくり活動への住民等の主体的な関わりを拡大させている。主催事業とともにこうした活動が地域にとってセンターの存在感を増すことにつながっている。（杉山準）